

文化芸大サークル認定更新

フェアトレード活動 熱意が持続



りとるあーすの活動を伝えるパネルの前で認定証を手にする栗山さん（中央）とメンバー。いずれも浜松市中央区の静岡文化芸術大で

途上国の生産品を適正価格で取引するフェアトレード活動に熱心に取り組む大学として、フェアトレード大学に認定されている静岡文化芸術大（浜松市中央区）が、2度目となる認定の更新を受けた。同大は国内初の認定大学で、2度更新したのも国内で初めて。

認定制度では、日本フェ

アトレード・フォーラム（東京都）が、フェアトレードの普及を目指す学生団体が大学に存在するなど五つの基準で審査する。2018年、同大を認定した。その後は3年に1度活動を審査し、認定を更新するかどうかを決める。

同大は25年3月に2度目の更新が決まり、普及団体で大学公認サークル「りとるあーす」のメンバーらが5月7日、横山俊夫学長に報告した。部長で2年の栗山はなこさん（19）は、交流サイト（SNS）活動に力を入れ、フェアトレード商品の知名度を向上させたいと述べた。

りとるあーすは、コーヒー豆の製造過程で取り除かれる実の一部や皮を乾燥させた「カスカラ」を用いた茶「カスカラティー」を開発し、22年に販売するなどした。気候変動が進み、コーヒー豆の収穫量が減ると

コーヒー豆→カスカラティー



記念撮影するりとるあーすのメンバーと大学関係者

いう予測に基づき、生産者を支援する取り組みが高く評価された。今後はカスカラを使ったアロマキャンドルや、別の食品の開発を進めるといふ。栗山さんは「SDGs（持続可能な開発目標）が大切とされる中、フェアトレード商品の購入は、すぐにできて相手に届く行動の一つ。買ってみたいと思う人が増えてほしい」と話した。（長谷川竜也）